

西之島の火山活動解説資料

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

＜火口周辺警報（入山危険）を発表＞

本日（13 日）22 時 00 分に火口周辺警報（入山危険）、及び火山現象に関する海上警報を発表しました。

火口から概ね 1.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や溶岩流に警戒してください。

○ 活動概況

第三管区海上保安本部所属の航空機により本日（13 日）14 時 05 分から 15 時 05 分に実施された上空からの観測によると、活発な噴火活動が続いていました。観測結果を海上保安庁と気象庁が確認したところ、大きな噴石が火砕丘東側斜面に形成された新たな火口から 500m 程度まで飛散し、噴煙が火口縁上 600m まで上がっていました（図 2－2、図 2－3）。また、火砕丘の山麓部に長さ 200m の溶岩流も確認しました（図 2－1、図 2－3）。

気象衛星ひまわりの観測によると、12 日夜から西之島付近で周囲に比べて温度の高い領域が認められています（図 4）。

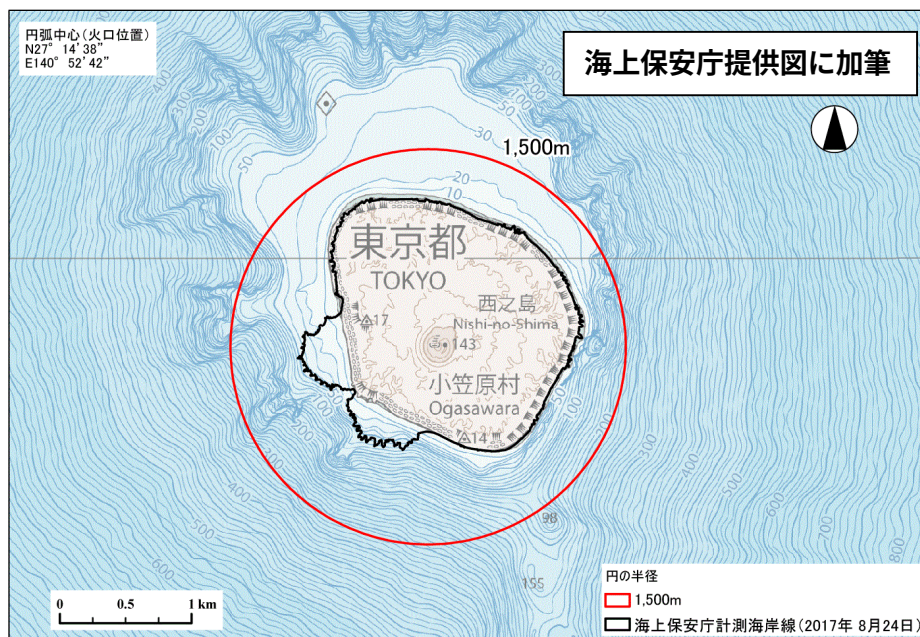


図 1 西之島 警戒が必要な範囲（火口から概ね 1.5km の範囲）

海底地形は噴火前のもので、現状とは異なります。

・ 7 月 13 日 22 時 00 分に火口周辺警報（入山危険）、及び火山現象に関する海上警報を発表しました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

この資料は、海上保安庁のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）

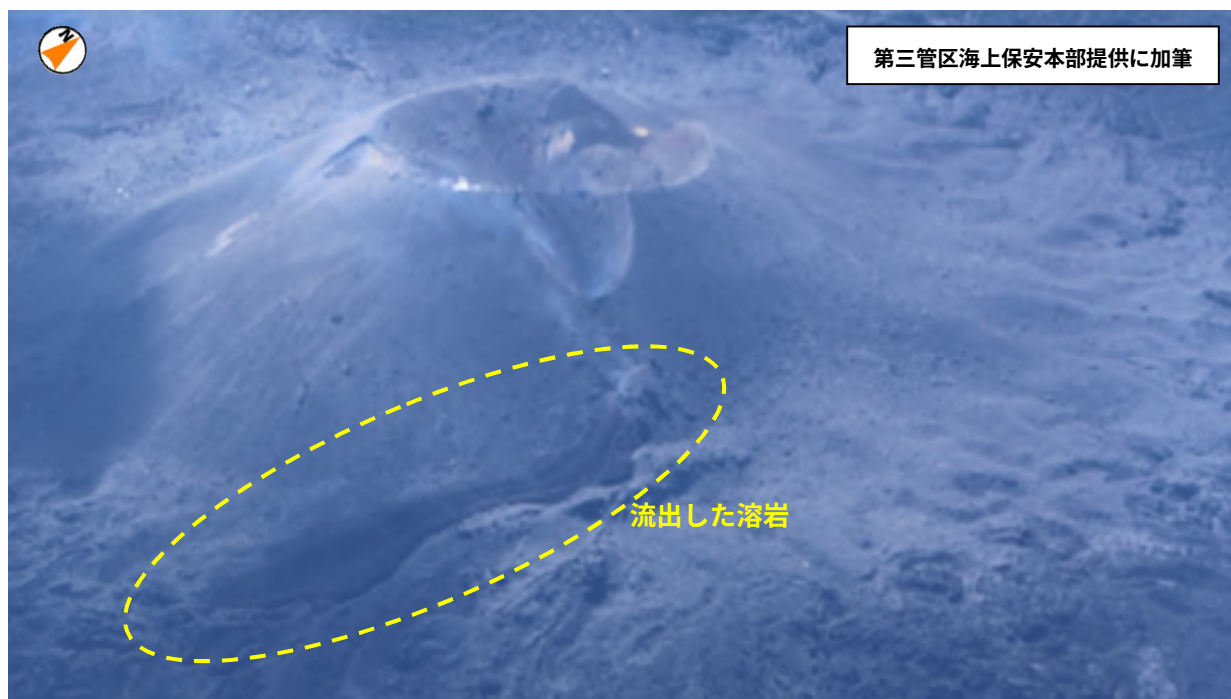


図 2 - 1 西之島 流出した溶岩の様子（7 月 13 日午後撮影 第三管区海上保安本部提供）
・火砕丘東側山麓部に長さ 200m の溶岩流を確認しました。



図 2 - 2 西之島 火口から飛散する大きな噴石（7 月 13 日午後撮影 第三管区海上保安本部提供）

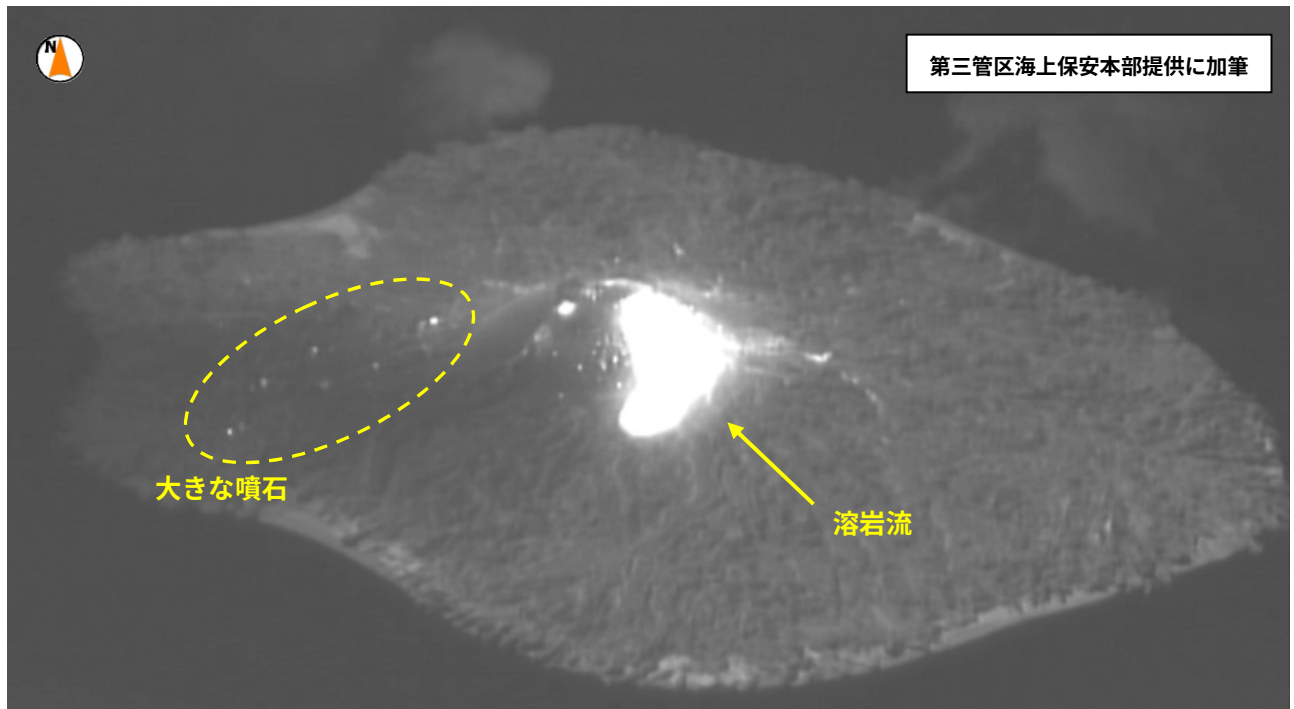


図 2 - 3 西之島 火口から飛散する大きな噴石及び溶岩流の状況
（7 月 13 日午後撮影 第三管区海上保安本部提供熱画像）

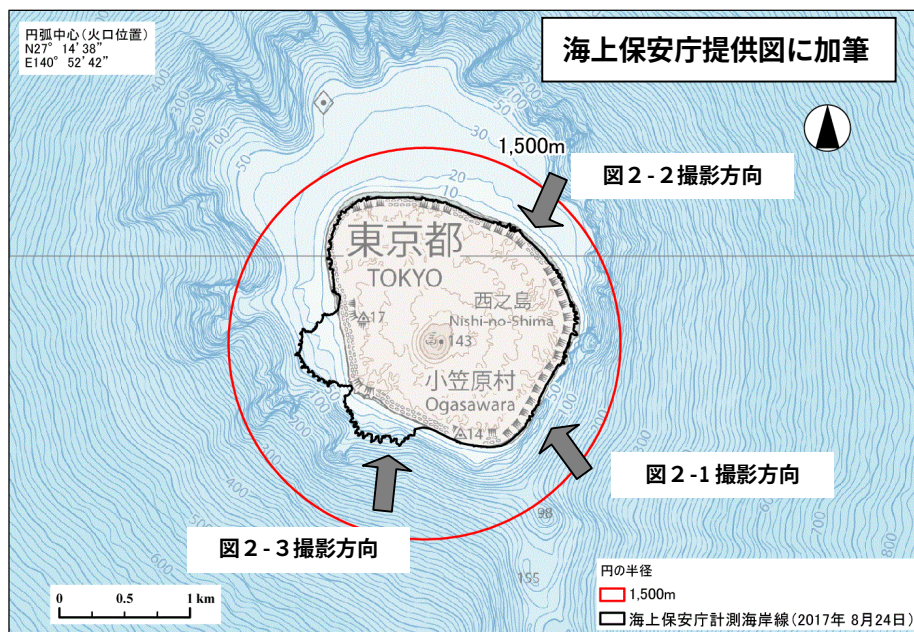


図 3 西之島 図 2 の撮影方向
海底地形は噴火前のもので、現状とは異なります。

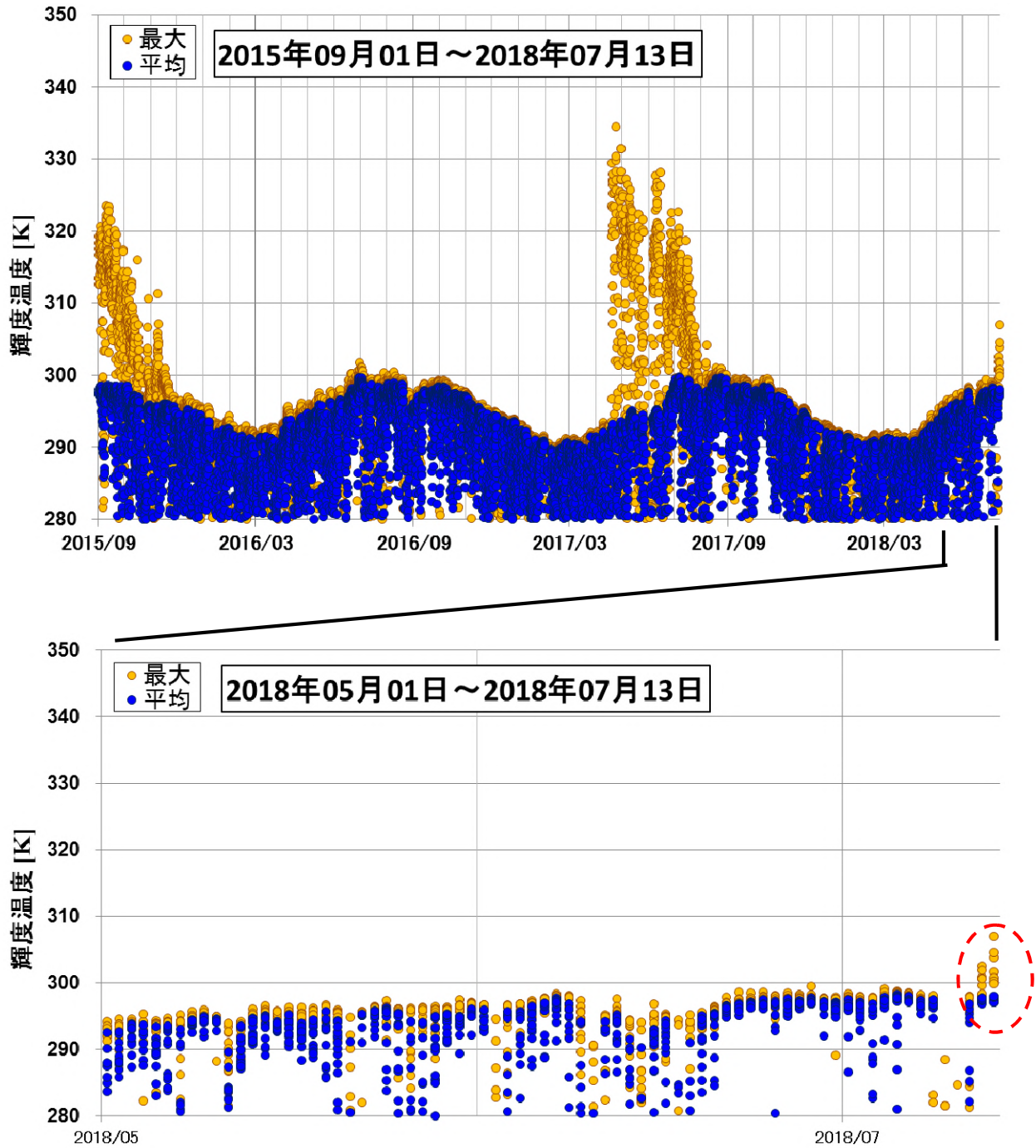


図4 西之島 ひまわり8号の観測による西之島付近の輝度温度の変化

輝度温度は中心波長 $3.9\mu\text{m}$ 帯による観測。

西之島を含む概ね 30km 四方の領域内の輝度温度の、最大値と平均値を示しています。

日射による影響を除外するため、夜間の観測値のみ解析しています。

・気象衛星ひまわりの観測によると、12 日夜から西之島付近で周囲に比べて温度の高い領域が確認されています（赤破線）。



図5 伊豆・小笠原諸島の活火山分布、及び西之島の位置図
西之島は、東京の南約 1000km、父島の西約 130km に位置します。